

第三者検証サービス



テスト・品質評価の設計～実施・保守までを一括サポート！

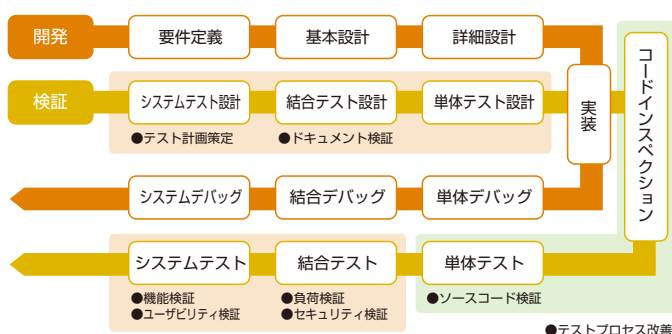
検証工程をアウトソーシングすることで第三者視点から公平で信頼性の高い検証を行うことができます。
弊社では経験豊富な公的資格を有した検証専門のエンジニアが計画立案・設計・検証を行っており、
上流工程から下流工程までの一括サポートもご提供できます。

お客様の課題、お悩みを解決

- テストや品質評価(下流工程)に時間・コストが掛かっている
- テストや品質評価(下流工程)の為にリソースを確保できない
- 検証に関するノウハウが無く、
効果的なテストの実施方法が分からない
- お客様が満足してくれるか不安が残る
- ユーザビリティを向上させたい

これらの課題を解決するのが、弊社の第三者検証サービスです。

Wモデル



サービスの特長

開発者様の視点からだけでなく、
ユーザー様視点の利便性・機能性をもとにテストを実施
開発者様が気づきにくいユーザー様目線での利便性を重視した改善提案
や機能性に対する検証を行うことで、市場満足度の向上に寄与します。

検証専門のエンジニアが設計・テスト

検証専門のテストエンジニアが、試験計画から検証・分析までを高いクオリティと公平性を持って実施し、製品の品質向上に貢献します。

上流工程から下流工程まで一括サポート

開発工程に対応した検証工程とのWモデルを適用。仕様書・設計書の検証から製品自体の機能検証、ユーザビリティ検証など検証全般をサポートします。

JSTQB認定テスト技術者資格:18名

テストエンジニアの国際資格ISTQBの日本版JSTQBの資格保有者を中心にテスト計画の策定から各種テスト設計、テスト実施、品質分析までを行います。

サービス内容



ドキュメント検証〈上流工程〉

仕様書・設計書・マニュアルなどのドキュメントから読み手に誤解を与える箇所を抽出します。システム開発の上流工程における『誤理解、抜け/漏れ、理解の難しさ』による認識不一致に端を発する手戻りを防止します。

仕様書の曖昧な記述は、読み手による理解の相違や、それらを解決するための負担を生み、ひいては成果物のクオリティにまで影響を与える重大な問題です。にもかかわらず、ドキュメント自体のクオリティ管理は、担当者の「感覚的な判断」によって行われてきました。ドキュメント検証サービスでは、文章を定量的に計測し、品質を可視化します。担当者の感性や文章力に依存しないドキュメントの品質向上を可能にします。

〈実績例〉仕様書/基本設計書に対しての指摘数および指摘密度
⇒文章数 約2500 指摘数:約500件 / 指摘密度:約25%



ユーザビリティ検証〈下流工程〉

設計・評価でノウハウを習得した検証専門のエンジニアがユーザーの利便性からの改善提案や機能性に対する検証を行うことで、市場への不具合流出を防ぐだけでなく、市場満足度向上を強力にバックアップします。

ITの急激な進化とモバイル端末の普及により、ユーザー層は広がるばかりです。従来の開発者視点の検証のみでは、ユーザーの多様なニーズを満たし、不具合の市場指摘を減らすことは困難になっています。携帯電話主流の時代からのノウハウの蓄積を持ち、数多くのモバイル端末・家電・車載機器等の検証を行ってきた弊社では、メーカー独自・OS標準機能・事業者試験等の包括的な検証計画をご提案します。

〈実績例〉⇒エンドユーザーになりきり、ユーザー操作に特化した「ベルソナテスト」
⇒発生不具合状況などから潜在不具合を予測し実施する「探索型テスト」

ローカライズ検証

海外製品を日本市場に適應させるためのローカライズでは、単に言語を「直訳」するだけでなく「ユーザーに馴染みのある用語や言い回し」に変換することが大切です。

既存の日本製品で使用されている言い回しを提供することで、海外モデルのスムーズな導入をサポートします。海外製品導入までのプロセスには、言語の翻訳はもちろん、日付、単位、地名の変更や日本語環境での表示・動作の確認などさまざまな工程が必要となります。通常の検証では見落としがちなイレギュラーな表示までチェックすることで、ローカライズによるユーザビリティの向上を推進します。実機をご提供いただける場合には、ローカライズ済みの製品で簡易操作検証を行うことも可能です。

〈実績例〉 日本でのユーザー数増加に伴い、日本語に対する問い合わせが急増
→弊社で検証を行ってからは、同様の問い合わせが大幅に減少

機能テスト自動化

アプリケーションの機能テストは、ソフトウェアの安定した運用に欠かせないテストの一つです。

ハードウェア・OSのアップグレードやソフトウェア自体のバージョンアップなどによって肥大化していく検証作業をテスト自動化によって軽減できます。

特にスマートフォン用OSの更新回数増加や、端末本体のスペック多様化により、機能テストの必要頻度も高まるばかりです。

機能テスト自動化サービスでは煩雑なテストを自動化することで、検証工程を合理化・省力化し、開発環境の健全化に貢献します。

〈実績例〉 複数メーカーに配信するアプリに対して、自動化で効率化を検討
→大手通信事業者から発売されている複数機種に対して実施

検証拠点

弊社では以下の3拠点を中心に検証を行っています。

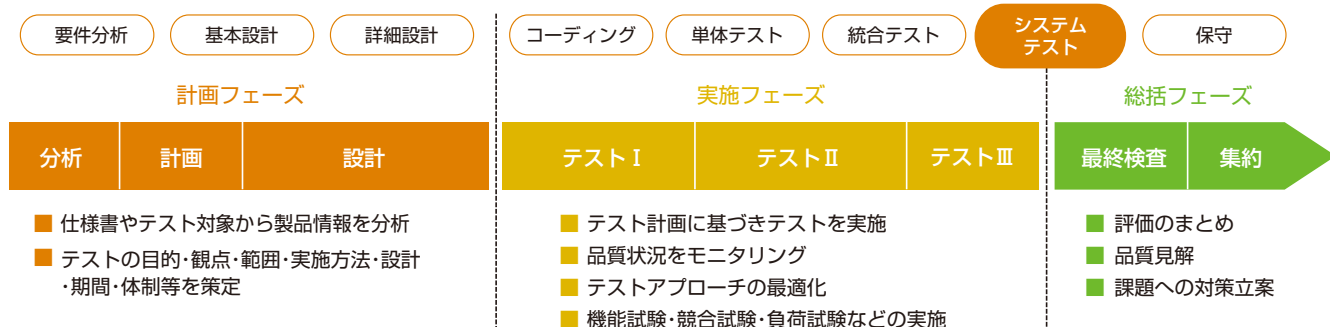
①本社 ②川崎事業所 ③宮崎事業所

各拠点とも入退出管理システムを導入するなどセキュアな環境を用意しています。

検証はお客様の専用ルーム/専用チームにて実施します。

※宮崎事業所ではニアショア検証も実施しています。こちらもご確認ください。

システムテスト手順例



テスト技法紹介

技法	内容
探索型テスト	テストを実施する過程で、テスト担当者がテスト実施情報、不具合の傾向などを活用しながらテスト設計をコントロールし、積極的に質の高い新しいテストケースを追加設計してゆきます。
アドホックテスト	公式なテストの準備をせず、実績のあるテスト設計技法を用いず、テスト結果も予測せず、毎回、テスト方法が変わるランダムな試験を実施します。
記述型テスト	仕様に基いてテストケースおよびテスト結果を準備し、テストケースに沿って行うテストで、機能検証に適しています。

2024.2.1 現在 内容は予告なく変更される場合がありますのでご了承ください



株式会社 シーイーシーカスタマサービス

本社 〒252-0004 神奈川県座間市東原 5-1-11 (さがみ野システムラボラトリ)
TEL 046-252-4160 FAX 046-252-4162
西日本事業所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-45 (新大阪八千代ビル2階)
TEL 06-6396-3457 FAX 06-6396-3458
宮崎事業所 〒885-0071 宮崎県都城市中町1街区7号 (BTV IT産業ビル8F)
TEL 0986-45-0351 FAX 0986-45-0358

〈お問い合わせ〉

✉ ccs-info@cec-ltd.co.jp

🌐 <https://www.ceccs.co.jp>